

休眠預金活用事業における 社会的インパクト評価の実施について



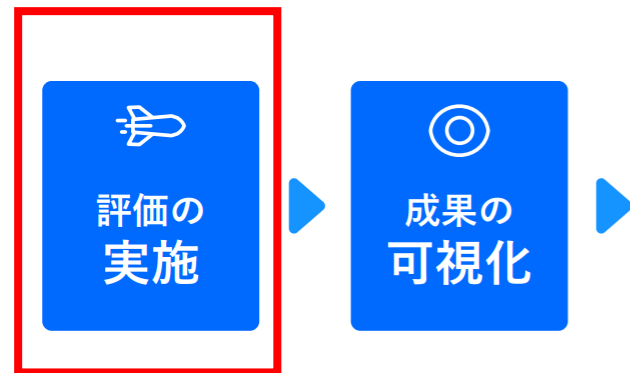
2023年8月
JANPIA評価チーム



休眠預金は国民の資産であり、その活用にあたっては最終的に社会の諸課題の解決を図るという「成果」を国民に目に見える形で生み出すことが求められる。

『休眠預金等交付金に係る資金の活用に関する基本方針』より

社会的インパクト評価



3つの目的

1 国民の理解を得る

2 事業の資源配分に反映する

3 活動の質の向上や発掘、
民間資金や人材の獲得

「休眠預金活用における社会的インパクト評価」より

休眠預金活用事業における社会的インパクト評価



短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた**社会的、環境的な「変化」**や**「便益」**等の**「アウトカム(短期・中期・長期)」**を**定量的・定性的に把握**し、当該事業や活動について価値判断を加える（評価を行う）こと。
「インプット」、「活動」、「アウトプット」から「アウトカム（短期・中期・長期）」に至るまでの論理的な結びつきを明らかにした上で、計画、実行、分析、報告・活用の4つの評価過程を経て実施される。

[『資金分配団体・実行団体に向けての評価指針』](#)より

【3つのポイント】

★ 1 アウトカム

.....
アウトカムは、社会に起こる望ましい変化、社会的課題が解決された状態、受益者や関係者、地域や環境への変化を指す。

★ 2 論理的な結びつき

.....
アウトカムだけを見るのではなく、問題解決に至るまでの事業のニーズ・セオリー・プロセスを可視化し、検証・改善していく。

★ 3 定量的・定性的に把握

.....
定量と定性の情報は相互に補完するものと捉え、定量と定性の両方の情報を把握していく。

[『休眠預金活用における社会的インパクト評価』](#)より

休眠預金活用事業における社会的インパクト評価



【アウトカム設定のポイント】

Step3 事業設計図を描く

① 〈実現したい社会の状態（長期アウトカム）〉

医療的ケア児とその家族を支援する社会的インフラが整っており、家族全員が社会とのつながりを持てている状態

② 〈事業終了3～5年後に実現したい状態（中期アウトカム）〉

誰（どこ）が、どんな状態になることを目指し、資金分配団体や実行団体はコミットメントします

受益者の状態	実行団体の状態	対象地域の状態
・希望する子どもたちが、社会との接点と簡単に持てるような状態になっている。 ・親の孤立感や疲弊感が軽減している。	行政や他団体との連携により支援対象地域の医療的ケア児とその家族に対して情報発信や支援ができる状態になる	医療的ケア児の世帯がレスパイトケア・休職等の支援にアクセスしやすい状態になる

③ 〈事業終了時まで実現する状態（短期アウトカム）〉

上記に設定した目標状態を達成するために必要な「前提条件」は何ですか。

受益者の状態	実行団体等の状態	対象地域の状態
支援対象者、社会との接点が増え、孤立感が軽減している	実行団体が助成期間と同程度以上の支援を継続できる基盤を有している	支援を行う行政や民間の団体、実行団体で情報交換が定期的に行われている

④ 〈想定する実行団体の活動〉

- ・医療的ケア児とその家族の旅行や夢の実現をサポートする
- ・医療的ケア児の家族のレスパイトケアの提供

④ 〈資金分配団体の活動〉

- ・クラウドファンディングプラットフォームの提供
- ・他団体や行政とのネットワーク強化
- ・実行団体の組織基盤強化支援（主に評価、資金調達、経営、人材育成、広報支援）

アウトカムの設定

事業終了後に、

最終受益者

実行団体

対象地域

がどういう状態になってほしいのかを明確にする

事業の成果として「事業終了後に何を残すのか？」を意識して活動に取り組むことを求めています。

1 自己評価が基本

評価の客観性や正当性を確保するという前提で、評価の全過程において、事業の実施主体が自ら行う「自己評価」を基本としています。また、必要に応じて、資金分配団体が実行団体の自己評価を伴走支援します。

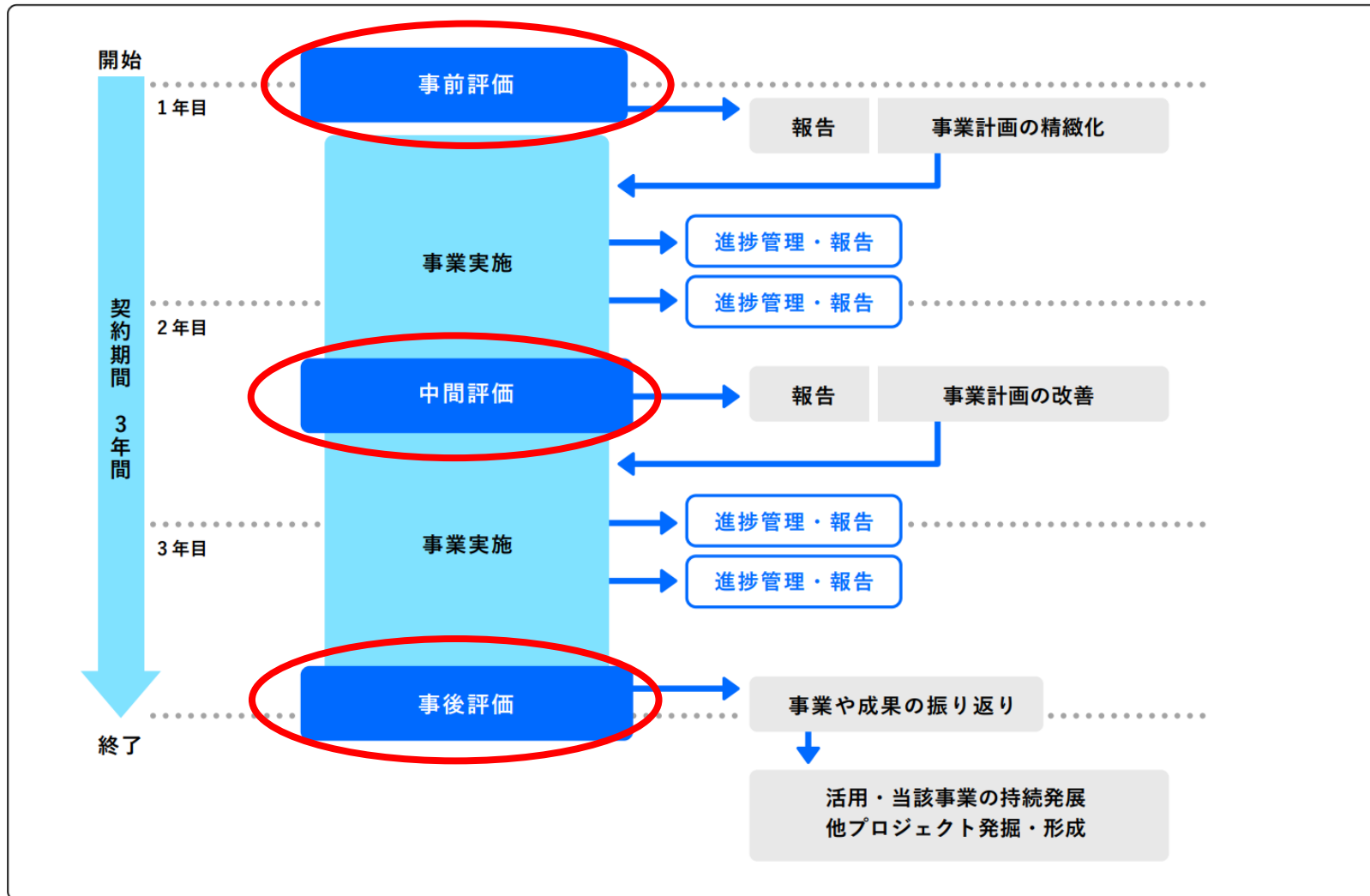
そのうえで、実行団体の評価報告は資金分配団体が点検・検証を行い、事業の改善や広報（説明）などに有効活用することを目指します。



休眠預金活用事業における評価の特徴



2 評価の実施時期は原則 3 回



事業終了後一定期間経過後、
必要に応じて



追跡評価

3 「評価の5原則」による評価の質の担保

評価の5原則

1	多様な関係者の参加、連携、協働	多様な関係者の幅広い参加、連携、協働
2	信頼性	信頼できる方法で収集するなど、適切な情報を使用する
3	透明性	活動状況や調査、成果などは、正確かつ誠意ある情報開示、説明や報告を行う
4	重要性	事業を遂行するうえで重要な事項や、組織内外の関係者の意思決定に役立つ事項など、特に重要と判断される項目を選択して評価する
5	比例性	組織の規模、資源や目的などに応じて、評価方法や報告・情報開示の方法を選択する

多様な関係者が参加していることは、評価の質を高めます

信頼性の高い情報で評価しましょう

情報の開示は正確にわかりやすく行いましょう

事業の中で特に重要な内容についての評価を優先しましょう

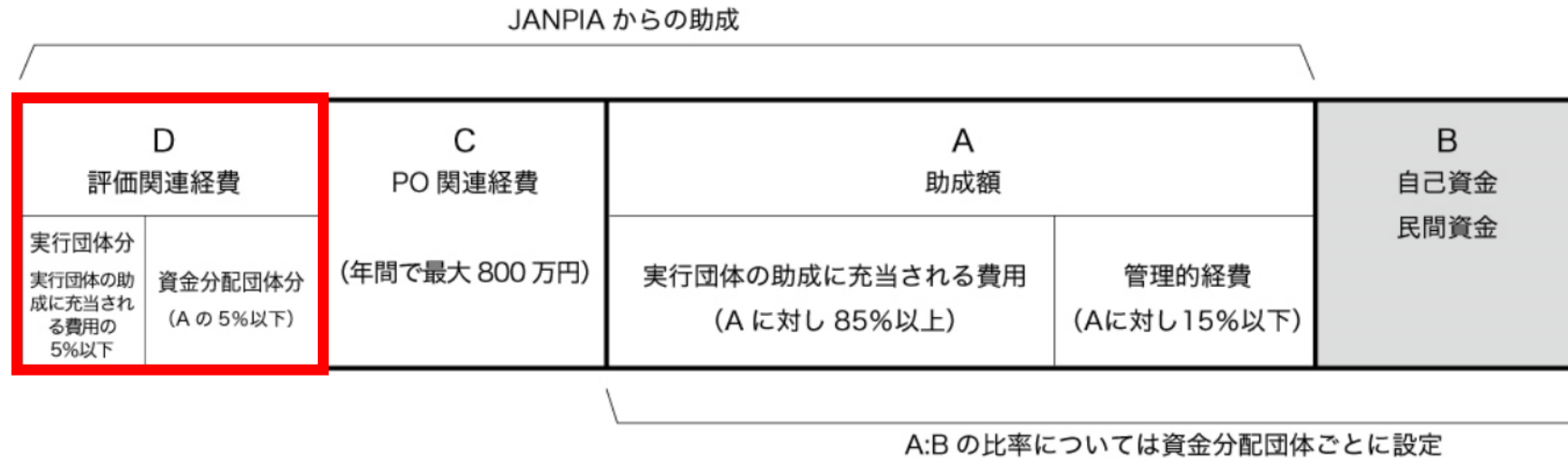
組織の背丈にあわせた等身大の評価を行いましょう

評価関連経費とは、資金分配団体及び実行団体が評価の考え方やスキルを身につけ、質の担保された自己評価を実施するために必要な支援を受けるために助成する費用です。

【資金分配団体】助成額の 5 % 以下

【実行団体】実行団体の助成に充当される費用の 5 % 以下

[総事業費の概念図]



(2023年度通常枠 資金分配団体公募要領より)

● 分野専門家の活用費用 ～事業戦略へのインプット～

- 既存の取り組みからの**教訓を取り入れる**（例：これまでの行政の取り組みから、仕組をまず作るのではなく、支援事例を中心に連携構築を目指したほうが機能しやすい）
- **指標の設定方法**（例：助成期間に達成することと、中長期で団体が目指すこととの接合）
- **定点でフィードバックをもらう**機会を設定する（半期ごと、1年ごとなど）
- 「外部評価委員会」・「審査委員会」・「検討委員会」などを設置

● 評価アドバイザーの活用費用 ～団体の評価スキルのキャパビルを中心に～

- ステークホルダーマップの作成・変遷の記録
- 問題分析の実施（**社会課題の構造分析**を行い、団体の役割を明確化する）
- ロジックモデル等の作成・検証（団体のビジョンに基づき、助成事業中、それ以降の長期戦略の明確化）
- 指標の設定（**進捗確認をする方法を含める**）
- 指標測定のための調査設計（**客観性の高い現状把握調査等の実施**）
- 実行団体向け評価研修の講師や企画支援など

● 団体同士の学びあいにかかる費用 ～ピアラーニングの場の設定～

- 現場視察、進捗発表会の開催
- 勉強会などの実施
- 上記実施した内容をまとめ(編集・デザイン等)、印刷、発行など

● 現状把握調査の実施費用 ～広く活用できるデータの収集～

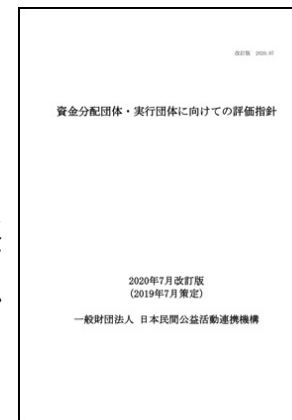
- 文献調査の実施
- アンケートの設計 (構造化インタビュー、半構造化インタビューの作成、アンケート対象者の抽出、アンケート依頼・アンケート項目の作成、アンケートの分析 (検定))
- アンケートの実施・データ入力のための人員確保

休眠預金事業評価に関する資料（タイトルにリンクあり）



■資金分配団体・実行団体に向けての評価指針

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づき策定された「基本方針」（平成30年3月30日内閣総理大臣決定）により、指定活用団体において策定すると規定されているもので、資金分配団体や民間公益活動を行う実行団体が、休眠預金等の活用の際に実施すべき評価について記述されています。



■休眠預金活用における社会的インパクト評価

評価指針の概要（休眠預金活用における評価の目的や特徴など）を、図やイラストを用いてまとめた冊子です。

■実行団体向け評価ハンドブック

[事前評価 事業設計図編](#)

[中間評価編](#)

[事後評価編](#)

[参考資料集](#)



初めて評価に取り組む実行団体向けに、手順や実施方法を実践的かつわかりやすくお伝えすることを目指して作成したハンドブックです。

※「資金分配団体・実行団体に向けての評価指針」に基づき作成していますが、あくまで参考資料であり、本ハンドブックにとらわれることなく、各団体に最適な手法で自己評価を実施してください。

ご清聴ありがとうございました。